

第 16 回循環器関連健保協議会（循健協） 議事録

日 時：2010 年 3 月 7 日（日） 7:00～7:52

会 場：国立京都国際会館 Room554A/B

議 長：和泉 徹会長（途中、川名正敏委員に交代）

出 席：15 学会、18 名（別表の通り）

議 事：

1. 前回議事録

議長から、前回の議事録が資料の通り作成されており、修正等あれば事務局に連絡いただくよう報告された。

2. 平成 20 年度診療報酬改定の検証

橋本委員から、平成 20 年度改定に関して DPC 部分の検証が報告された。主な内容は下記のとおり。

- ①EPS やフローラン等、これまでに検証して問題があるとされた部分については厚労省に要望し、ほぼ改善されている。
- ②平成 20 年と 19 年の DPC および出来高の支払額を比較すると、平成 20 年には改善されているように見えるが、これは出来高計算が下がったためである。
- ③平成 20 年度改定では、特に高機能病院で係数への依存がより高まっている。
- ④平成 22 年度改定では、副傷病の扱いに変化が見られ、影響が予想される。また重症度が高いもので点数が低下しているものがあり、これはより多数の病院が参加するようになったことが影響していると考えられる。また係数への依存はさらに高くなっていると予想される。

また、これまで協力を依頼してきた厚生科研研究（松田版）が今年度で終了することになり、後継の調査については未定である。このため、今後はデータの取得が困難となる可能性がある。厚労省がもっている DPC データの開示は開始時期が不透明であり、今後民間ベースでデータを収集するための組織が必要となると思われる。

3. 平成 22 年度診療報酬改定の状況

議長から、平成 22 年度診療報酬改定の結果について報告された。これについて意見交換を行った。主なものは次の通り。

- ①循環器内科関係の要望は採用率が低かった。また点数が上がったものについても、使用頻度が低いものが多いので現場への影響は
- ②心臓血管外科関係は全体として点数が上がっているが、これは今回の改定の前提となる政治的方向付け（外科重視、勤務医待遇改善）を踏まえて外保連試案を元に変更されたものである。試案の点数と改定前点数の差が大きいものを中心にあげられているが、若干の調整もされているようである。なお学会からの具体的な要望の採用については、例年程度である。
- ③資料にあげられたもののほか、経食道エコー、非心臓手術における心臓がかかわる重症例についても点数が上げられた。
- ④1 次・2 次審査は非公開であり、委員も明らかでない。不採用になった理由も明らかになっていない。

また今後の進め方について、意見交換を行った。主なものは次の通り。

- ①外保連試案は、現在 8 版を準備している。人件費のみを対象とし、精緻化を進めている。
- ②生体検査については、内科からの意見を出す必要がある。内保連でも検査日循も外保連に加盟しているので、積極的に参加するべきである。
- ③内科系技術料は算定に困難な面があるが、今後データや指標が重視される傾向にあるので、検討を進めていく必要がある。
- ④ソタロールやベプリジルなど、保険適用がまったく認められていないものについて、優先して要望していく必要があるのではないか。

4. 平成 24 年度診療報酬改定への動き

議長から、平成 24 年度診療報酬改定への動きとして、内保連がこれまでよりも前倒しのスケジュールを設定していることが報告された。循健協・日循としても、これにあわせた準備を進める。

以上

【出席者一覧】 学会名(カナ順)	委員 氏名
日本医学放射線学会	栗林 幸夫
日本冠疾患学会	西田 博
日本救急医学会	長尾 建
日本血管内治療学会	水野 杏一
日本循環器学会	山口 徹
〃	川名 正敏
〃	橋本 英樹
〃	和泉 徹
〃	松木 高雪
日本循環器管理研究協議会	久代 登志男
日本心臓血管内視鏡学会	東丸 貴信
日本心臓血管麻酔学会	横田 美幸
日本心臓病学会	伊東 春樹
日本心電学会	杉 薫
日本心不全学会	百村 伸一
日本成人病(生活習慣病)学会	東丸 貴信
日本超音波医学会	高沢 謙二
日本動脈硬化学会	吉田 博
日本脈管学会	宮田 哲郎

事務局：前川 裕